

平成30年度 「親になる」講座とふれあい体験 実施報告

1. 目的

近年、社会の中で核家族化が進み、子どもが成長する過程で自分より小さな子どもや赤ちゃんに接する体験をしないで大人になる人たちが増加しています。結婚をして親になった時に初めて赤ちゃんに接し、実際に赤ちゃんを目の前にしてどう接して良いか戸惑う親も少なくありません。

本事業は、市内5中学校で、親になる前の生徒を対象に、平成23年度に県が作成した愛着形成のための教材「親と子のふれあい」DVDを活用し、「家庭を持つこと」「夫婦が協力して子育てをすること」などの学習講座を行い、その上で乳幼児親子との生きたふれあいを体験します。

国は昨年、乳幼児とふれあう取組みを、児童館の新たな取組みとして位置づけ、市でもこの事業を、子ども・子育て支援事業計画の施策として位置づけ、市内5中学校区で親子ひろばを開催する「NPO 法人 地域ぐるみで子育て・子育ての会こころん」と知多市児童センターが協働で実施しました。



2. 開催日時・場所・実施人数

実施校	日にち	親/子 人数	中学生	ふれあい体験場所	講座場所
旭南中学校	10月30日	29組37人	29人	柔剣道場	教室
	11月6日	30組35人	26人		
八幡中学校	11月1日	26組34人	32人	サブアリーナ	教室
中部中学校	11月2日	33組43人	30人	柔剣道場	教室
知多中学校	11月8日	25組34人	29人	サブアリーナ	教室
東部中学校	11月9日	27組38人	30人	武道場	武道場会議室

3. 内容 (実施の様子)

【DVDを使った「親になる」講座】

赤ちゃんに対するイメージ、してみたいことなどを事前に記入してもらい、DVDを視聴しました。赤ちゃんの発達、子育てや親に関することを講座で学びました。



中学生の感想(抜粋)

- ・講座を受ける前は自分が親になるなんて想像がつかなかったけど、将来子どもがほしいと思いました。
- ・前までは「赤ちゃんは泣いてばかりでうるさいな」と思っていたけど、今日の授業で赤ちゃんは泣くのが仕事だとわかったので仕方ないなと思いました。赤ちゃんが泣いていたら色々考えて色々やろうと思いました。
- ・「赤ちゃんは泣くのが仕事です」この言葉が一番強く印象に残りました。
- ・ビデオを見て赤ちゃんの世話はとても大変だということがわかったので、「親になるのはとても大変なことなんだ」と思いました。

【赤ちゃんとのふれあい体験】

赤ちゃんと身近にふれあい、お母さんと話をしました。赤ちゃんの発達、子育てや親に関することを、赤ちゃんと実際にふれあうことで、それぞれに気づくことができました。



一緒に笑う😊



ふれあう❤️



お母さんと話し、親の思いを知る



小さくて壊れてしまいそうな大切な命に触れて、生徒達の優しい眼差しと、いとおしむ気持ちが溢れる体験となりました。そのそばには、優しく見守るお母さんお父さんの姿がありました。「赤ちゃんってかわいい!」「笑ってくれるとうれしい!」「お母さんって大変だな」「私の小さい時はどんな子だったの?」など、ふれあう中でいろいろな気持ちを持つ体験をし、たくさんの気づきがありました。

中学生の感想（抜粋）

・赤ちゃんとコミュニケーションをとるのは思ったより難しかったです。いたずらをして笑ってくれたところがかっこ良かったです。赤ちゃんとふれあうことが前より楽しいことだと思えました。

・体験前はすごく不安でしよがなかつたけど、実際にふれあってみてすごく楽しかったです。将来子どもがほしい気持ちになりました。あんなに手がかかる小さな子どもだった私たちをしっかりと育ててくれた親にも感謝したいと思いました。

・「親になる」ことについては、まだよくわからない。泣いている赤ちゃんが多かったので、お母さんは大変だと思いました。

・自分がもしお父さんになったら、赤ちゃんのお世話がしっかりできるようになりたいと思いました。これから大人になるまでにいろいろなことを学んでいこうと思いました。

・赤ちゃんと仲良くなるのは難しい！

・親になるのは大変だと思ったけど、親になるのも悪くないと思いました。赤ちゃんはかわいかったです。



たくさんの親子がふれあい体験に参加してくれました。



お母さんたちから中学生への感想（抜粋）

・初めはお互いに緊張してどうしていいかわからずという感じで心配でしたが、いろいろ考えて工夫して喜びそうなことを見つけてくれてとても嬉しかったです。最後は抱っこもぱっちりでしたね。

・「できたね」「じょうずだね」など、一つ一つ声をかけてくれてほめて笑顔で話しかけてくれて嬉しそうでした。小さい子と遊ぶのがすごく上手でびっくり。またどこかで会ったら声をかけてね。

・人見知りでたくさん泣いてしまいごめんなさい。泣いている息子に優しくしてくださいありがとうございます。子どもは泣いているときは大変ですが、笑顔で遊ぶ時はかわいいです。息子の事で懲りずに子どもが好きになってくれたら嬉しいです。

・「小さい子のお世話と一緒に遊ぶのはあまり慣れていない」と言っていたけれど、一緒に歩いたり優しく微笑んでくれたりして娘も嬉しかったと思います。



4. 親の思い（参加保護者の感想から抜粋）

・中学生のような大きなお兄さんお姉さんにふれあう機会が普段ないので、娘も私もとても楽しい時間となりました。「10年もするとこんなに大きくなるのだなあ」と思い、「成長を見守ろう」とも思いました。

・子どもにも親にもとても新鮮な体験で、初めて見る我が子の姿に嬉しく思い、発見もありました。こんな小さい子ですが、誰かの役にたてることがあったんです。

・今まであまり会ったことのない世代で、赤ちゃんの扱いに慣れていない中学生とのふれあいがどうなるのか不安もありましたが、子どもも中学生もリラックスした顔が見られて満足です。適応能力はすごい！と思いました。

・中学生によって子どもへの関わり方が違って、一緒に遊びたい、楽しみたい、子どもに楽しんでもらいたい、という姿が印象的でした。



5. 教諭の感想（抜粋）

・実施前はとても緊張していて自信もない様子の生徒が多かったですが、体験の中盤からは表情が緩み小さい子とふれあうことに楽しさを感じ自信をもった感じでした。小さい子への理解が増し、興味関心が高まったと感じました。

・自然と笑顔になる生徒が増えたと感じます。赤ちゃんとふれあうことで大変さやかかわいさに気づき自分たちが中学生である（成長した）ことを話していました。

・普段活動的でない生徒がきちんとやれるか心配でしたが、小さな子と積極的に遊んでいる姿を見ることができました。生徒たちの感想には、「お母さんの大変さ」を感じることができ、「自分自身を振り返ることのできる体験になった」とあり、他者に優しくなれるいい経験になりました。

・「人と人とのふれあい」が減ってきて温かさを感じるものが少なくなっている昨今、生徒にとって「体験」「経験」というとても素晴らしい場になりました。何かして遊んであげようと考え心にかけている生徒、しかし何をすればよいかわからない自分。頭を使っているけれど「無力」なことで何かを学んでいると感じました。短い時間の中で、生徒が乳幼児を抱きしめる行為が後半になって密接さが増した動きになっていました。「愛情」につながっていると感じました。



6. まとめ

ふれあい体験の前の講座の中で“赤ちゃん”に対するイメージについて、簡単なアンケートを実施しました。

76%の生徒が「赤ちゃんに興味・関心がある」と答えています。176名の生徒のうちの40名は赤ちゃんとふれあったことがなく、今回のふれあい体験で初めて赤ちゃんと接することになりました。

中学生は、「親になる」講座でのDVD視聴で、赤ちゃんは泣くのが仕事だとわかり、子育ては大変そうだなという、なんとなくのイメージを持ちました。その後のふれあい体験で、実際に赤ちゃんに接し、子育てを体感したり、母親から子育ての話を聞いたりして、子育てのことが少しわかったようでした。

事後の“「親になる」講座と乳幼児ふれあい体験はどうでしたか？”という設問に対する記述の中には、最初は不安だったり少し怖いという思いを持ったりしていたものの、実際に赤ちゃんとふれあってみたらとても楽しかったし可愛かったというものが多くありました。赤ちゃんとふれあう中でどう対応すればいいか迷うことが多々あったようです。しかし、わからないなりに一生懸命赤ちゃんと関わってみたら、赤ちゃんに思いが通じ、楽しさを共感し、赤ちゃんが笑ってくれたうれしさ等の気持ちを感じる体験となったようです。このことは、「親になること」に対して良いイメージを持つことにつながったのではと感じています。

